



2026年7月15日

各 位

会社名 株式会社タウンズ
代表者名 代表取締役社長 野中 雅貴
(コード番号：197A 東証スタンダード市場)
問い合わせ先 取締役 CFO 内山 義雄
TEL. 055-953-9590

中期経営計画の更新に関するお知らせ

当社は、昨年8月に公表しました中期経営計画（期間2026年6月期～2030年6月期）を、中期経営計画（期間2027年6月期～2031年6月期）へ更新いたしましたので、お知らせいたします。

1. 中期経営計画更新について

当社は、2025年8月に中期経営計画を公表しましたが、それ以降の経営環境の変化と事業戦略の進展を反映し、新たな中期経営計画（期間2027年6月期～2031年6月期、以下「本中計」）を策定しました。

2. 本中計の重点施策、骨子

- ① 感染症流行のボラティリティを踏まえた市場想定見直しと戦略再構築
- ② 検査プラットフォームの拡張とデータ・AI基盤の整備
- ③ 慢性疾患領域進出の具体化
- ④ キャッシュアロケーションの提示

3. 経営数値目標

	直近期 業績予想 2026年6月期	本中計最終年度 目標 2031年6月期
売上高	150億円	367億円
売上総利益	93億円	188億円
営業利益	43億円	118億円
当期純利益	56億円	79億円

詳細につきましては、別添資料をご覧ください。

以 上

中期経営計画 2027年6月期-2031年6月期

株式会社タウンズ
2026年7月15日

中期経営計画更新の背景と骨子

- 25年8月に中期経営計画（以下「前中計」）を開示したが、それ以降の経営環境の変化と事業戦略の進展を反映し、新たな中期経営計画（以下「本中計」）を策定した

① 感染症流行のボラティリティを踏まえた市場想定見直しと戦略再構築

- 26年6月期の業績予測は、市中在庫消化の長期化と新型コロナウイルス感染症流行の想定外の縮小などにより、25年8月に開示した売上高207億円から、売上高150億円へと下方修正
- 感染症流行のボラティリティを踏まえ、本中計においては**感染症POCT市場を保守的に想定**しなおした
- **「イムノエース SARS-CoV-2/Flu」の改良品（以下「コンボⅡ」）ローンチ(27/6期 1Q目標)**によるシェア拡大を始め、コンボ検査キットの項目拡充、更なる性能改善など、抗原検査の製品力強化とラインナップ拡充を進める
- ElectraDxやnodocaなど**新たなPOCTの導入**を進め、感染症POCT事業の着実な成長を図る

② 検査プラットフォームの拡張とデータ・AI基盤の整備

- 「次世代の検査技術を継続的に生み出す仕組みの構築」を掲げ、主力のPOCTに加えて、**受託検査、SaMD**などの新たな検査プラットフォームを導入。加えて、それらのR&Dを支える**データ・AI基盤**を整備する

③ 慢性疾患領域進出の具体化

- 前中計の開示以降、クエアボ・テクノロジーズ株式会社（以下「クエアボ」）の100%子会社化によるSaMD事業への進出を始めとして、業務提携先との関係が深化・拡大。これを踏まえ、**心疾患（クエアボ他）・がん（Craif他）・認知症（Splink）・糖尿病（Provigate）**など、慢性疾患領域への進出に向けた提携戦略と売上計画を示す

④ キャッシュフローの提示

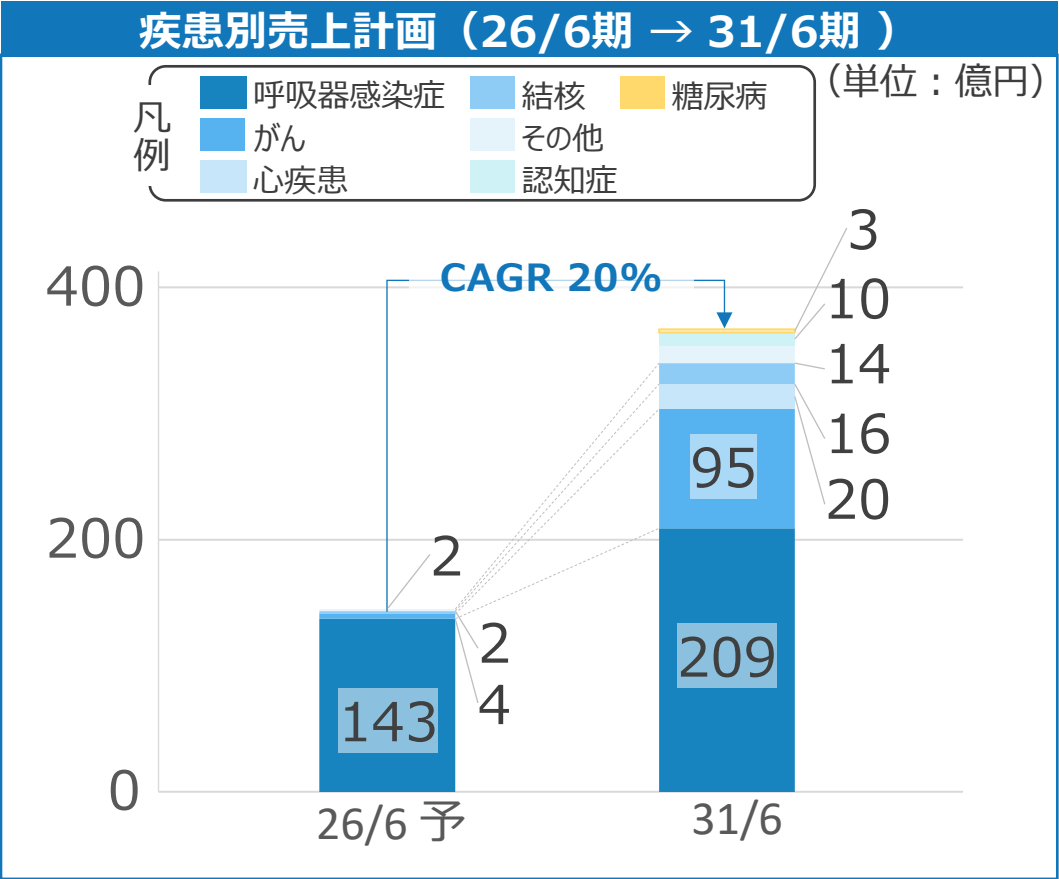
- 前中計の開示以降、富士山三島工場や、提携先への出資など大口の成長投資は一巡。それを踏まえ、**株主還元**など本中計期間における**フリーキャッシュフロー（5か年で計385億円を目標）の使途の方向性**を示す

INDEX

01. 全体像	P. 4
02. 検査プラットフォーム戦略	P.11
03. 疾患別戦略	P.16
04. ビジョン実現のための主要施策	P.24
05. 計数計画	P.33
06. Appendix（用語集含む）	P.37

全体像

- 本中計最終年度の31/6期において、売上高367億円、営業利益118億円の達成を目指す
- 呼吸器感染症POCTのシェア拡大による売上高拡大に加えて、がんなど慢性疾患領域での成長を図る
- 本中計期間中に、プライム市場への移行を目指す

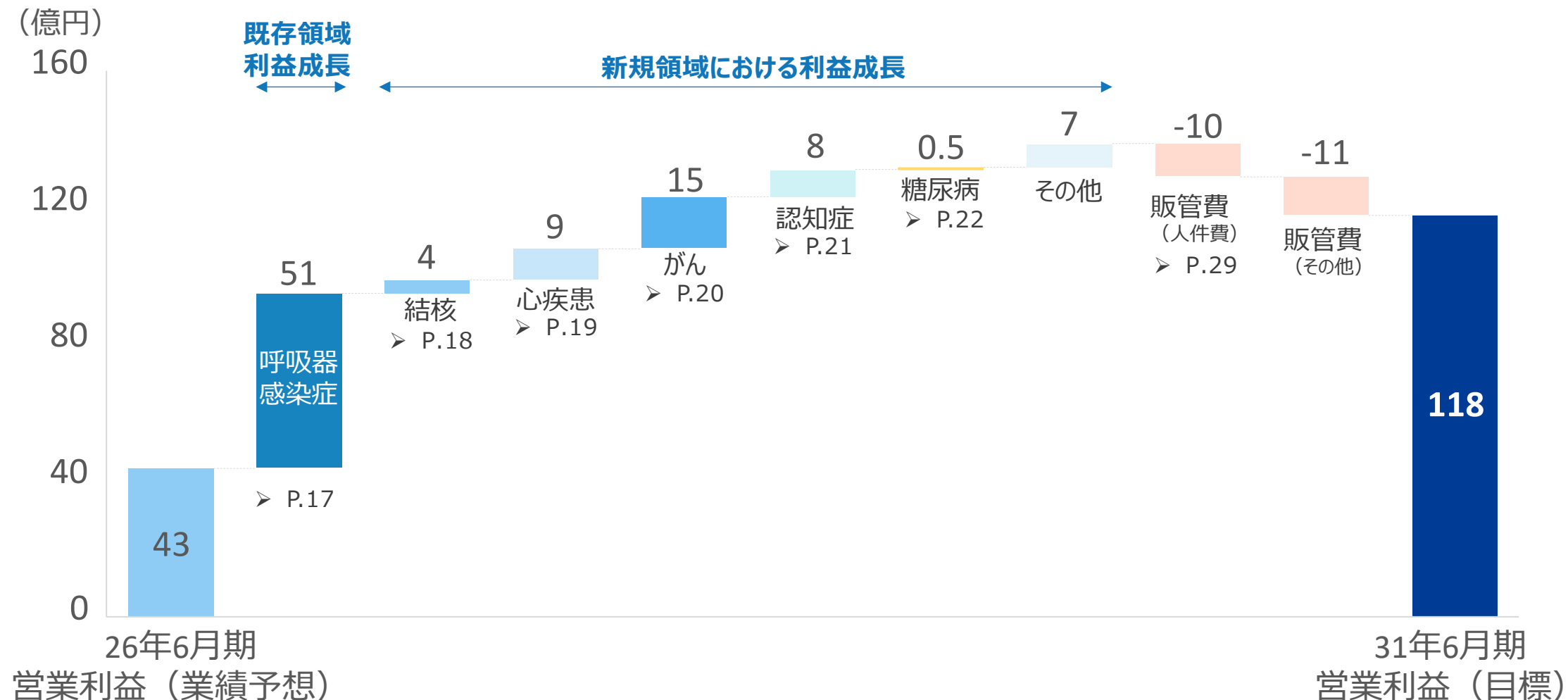


主要な数値項目（26/6期 → 31/6期）		
	直近期 業績予想 26/6期	本中計最終年度 目標 31/6期
売上高	150億円	367億円
売上総利益	93億円	188億円
営業利益	43億円	118億円
営業利益率	29%	32%
EBITDA	53億円	136億円
当期純利益	56億円 ¹⁾	79億円
ROE	31%	32~52% ²⁾

1) 26/6期は、特別利益として、補助金（サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金など）を計上
2) 本中計期間において、配当・自社株買いなど株主還元の水準を複数ケース想定。これに伴い、31/6期のROEはレンジでの想定としたもの

26/6期から31/6期への営業利益増減要因

- 呼吸器感染症POCTの成長に加え、心疾患・がん・認知症他の新規領域の立上げによる利益成長を目指す
- AIXなど生産性向上施策を推進し、成長と経費効率化の両立を目指す

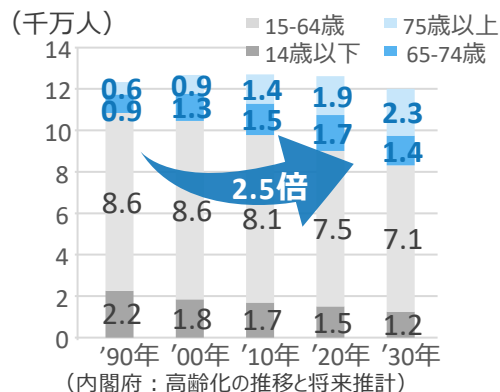


本中計におけるビジョン：診断技術とデータ・AIで、社会課題を解決する

- 高齢化に伴い増加する慢性疾患患者に対して、細胞治療などの新たな医療技術の導入が進んでいる一方、専門医を始めとした**医療リソースはひっ迫**しつつある
- 限られた医療リソースを有効活用するため、診断技術の役割はますます大きくなっている
- タウンズは、POCT、受託検査、SaMDなどの検査プラットフォームを適切に組み合わせることで、病院、クリニック、在宅医療、ヘルスケアサービスを含めた**社会全体の診断フローの最適化**に貢献することを目指す
- **診断技術にデータ・AIを掛け合わせ**、診断フローを支える**次世代の検査技術**を継続的に産み出す仕組みを構築する

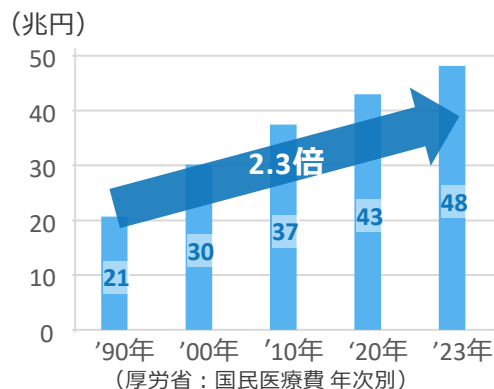
高齢化の加速

40年間で65歳以上人口が約**2.5倍**に



国民医療費の増大

30年間で約**2.3倍**に



医療技術の進化

技術革新による新たな医療の登場



ゲノム医療



AI創薬



細胞治療

AIの社会実装

世界的にAIXの流れが加速

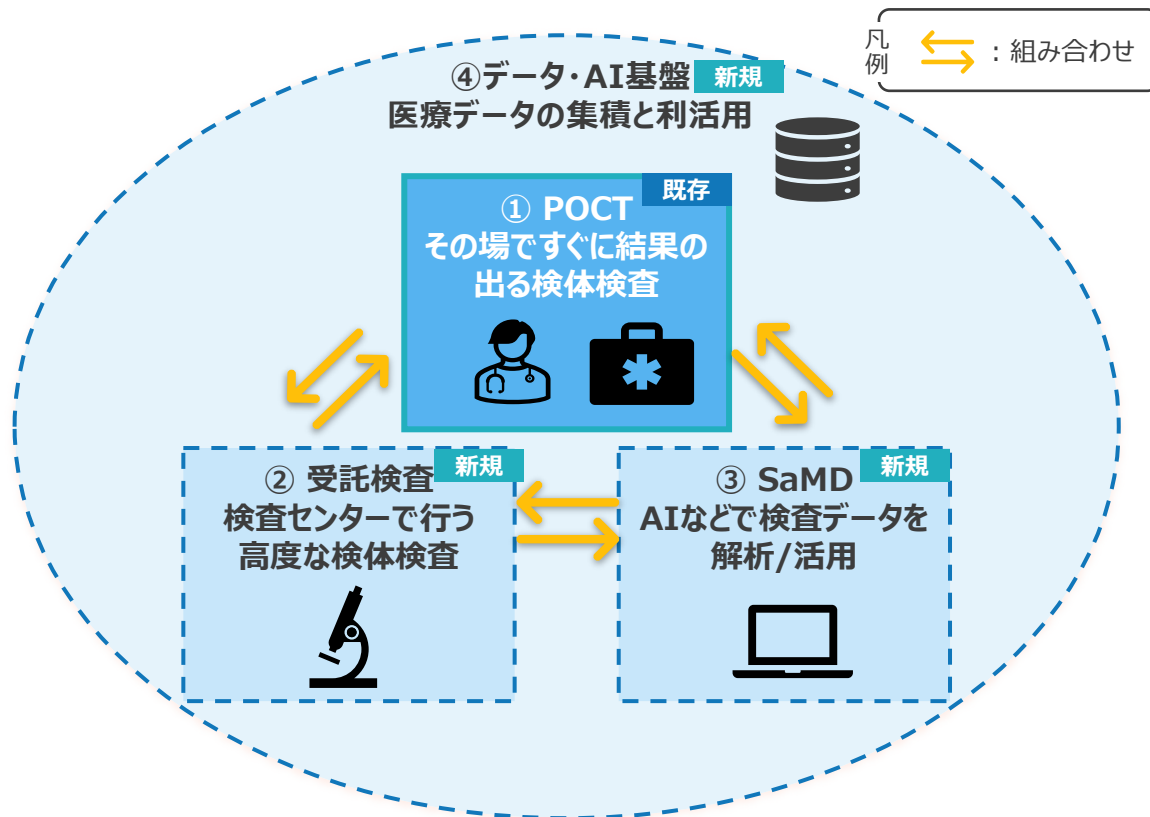
- 医療データの集積、利活用に向けた仕組みの確立
- 診断技術×AI による診断フローの更新

検査プラットフォームの拡張とデータ・AI基盤の整備

- POCTに加えて、受託検査、SaMDなど新たな検査プラットフォームを導入。R&Dを支えるデータ・AI基盤を整備する
- タウンズの強みの検体検査をデータ・AI基盤と連携させ、事業ドメイン拡大と持続的な優位性構築を目指す

次世代検査技術導出のイメージ

各検査プラットフォームの組み合わせにより次世代の検査技術を開発/運用



組み合わせパターン

① POCT
×
③ SaMD

② 受託検査
×
③ SaMD

データ・
AI基盤

次世代検査技術の方向性

POCTで取得したデータをAIで解析

- nodoca（咽頭画像のAI解析による低侵襲の感染症診断）
- 認知症POCT（認知機能AIと血液マーカーPOCTによる認知症の高精度スクリーニング）

P.17
P.21

受託検査で取得したデータをAIで解析

- 膀胱がんSaMD（Craifが開発中の、NGSで尿中のmiRNAなどを検出しAIで解析する膀胱がんのスクリーニング検査）

P.20

利活用可能な医療データ集積とAI運用環境

- バイオバンク検体、医療画像データ、EHRなどを利活用しやすい状態でデータバンク化
- 計算資源やアルゴリズムなど、データの利活用に向けた運用環境の整備

P.15

主要な事業ドメイン



- 「呼吸器感染症×スクリーニング」事業は、製品力・販売力強化による着実な売上拡大を目指す
- 新検査技術により慢性疾患領域へ進出。感染症流行のボラティリティに左右されない収益基盤を構築

凡例

: 既存領域

: 新規進出領域 (Phase 1)

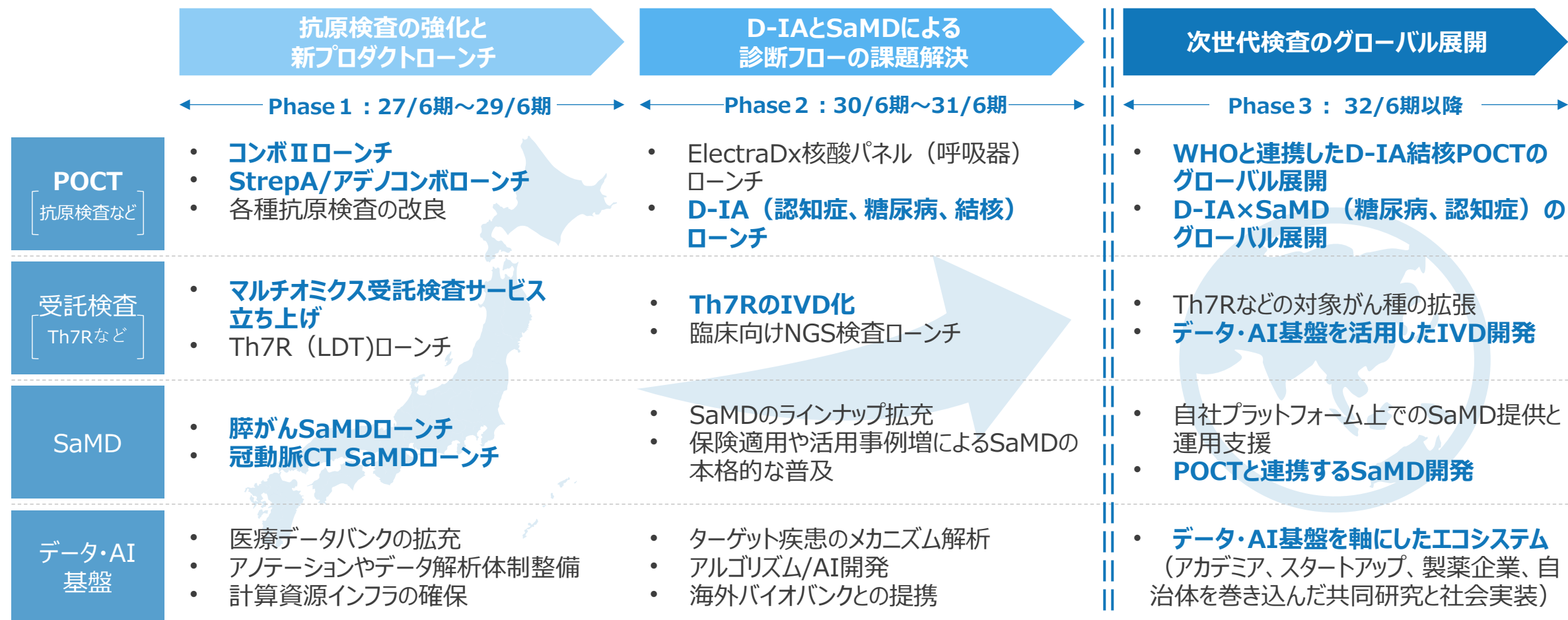
: 新規進出領域 (Phase 2)

		罹患・発症前		罹患・発症後		治療前		治療後					
		リスク評価		スクリーニング		確定診断		治療方針策定		モニタリング		SOM	
感 染 症	呼吸器感染症			抗原検査 nodoca		ElectraDx						227億円 (国内)	
	結核			D-IA		D-IA				D-IA		93億円 (海外含む)	
慢 性 疾 患	心疾患			ElectraDx		SaMD (医療画像)		SaMD (医療画像)				35億円 (国内)	
	がん	受託検査 (miRNA)		SaMD (miRNA)		SaMD (医療画像)		受託検査 (Th7R)		受託検査 (Th7R)		210億円 (国内)	
	認知症			D-IA				D-IA				126億円 (国内)	
	糖尿病									D-IA		430億円 (海外含む)	

注 SaMD : Software as a Medical Device。医療目的で用いられるソフトウェア単体の医療機器。

長期タイムライン

- 抗原検査の強化により売上を拡大。受託検査やSaMDなどの新規プロダクトをローンチ:Phase 1
- 次世代POCTのデジタルイムノアッセイ(D-IA)をローンチ。SaMDと組み合わせて診断フローの課題を解決: Phase 2
- D-IAをグローバル展開し、さらなる成長の実現へ:Phase 3 (本中計期間以降)



A large, light blue circle with a radial gradient, transitioning from a lighter blue at the top to a darker blue at the bottom, serving as a background for the title text.

検査プラットフォーム戦略

- 主力の抗原検査は、製品ラインナップ強化などにより着実な成長を目指す
- ElectraDx、nodoca、デジタルイムノアッセイ（D-IA）の導入により、医療現場の課題を解決する

POCTの役割と課題

- POCTはその場で検査結果を出し、適切な治療方針の策定に寄与
- 従来型POCTは、データの精度や質に限界がある（一方で、検査センターへの外注検査はTAT¹⁾が長く、コスト面の制約がある）
- 精度不足で偽陰性や偽陽性になると、再検査により患者負担が増す
- 感染症流行期は検査件数が多くなり、医療従事者の負担が増す

タウンズのPOCT戦略

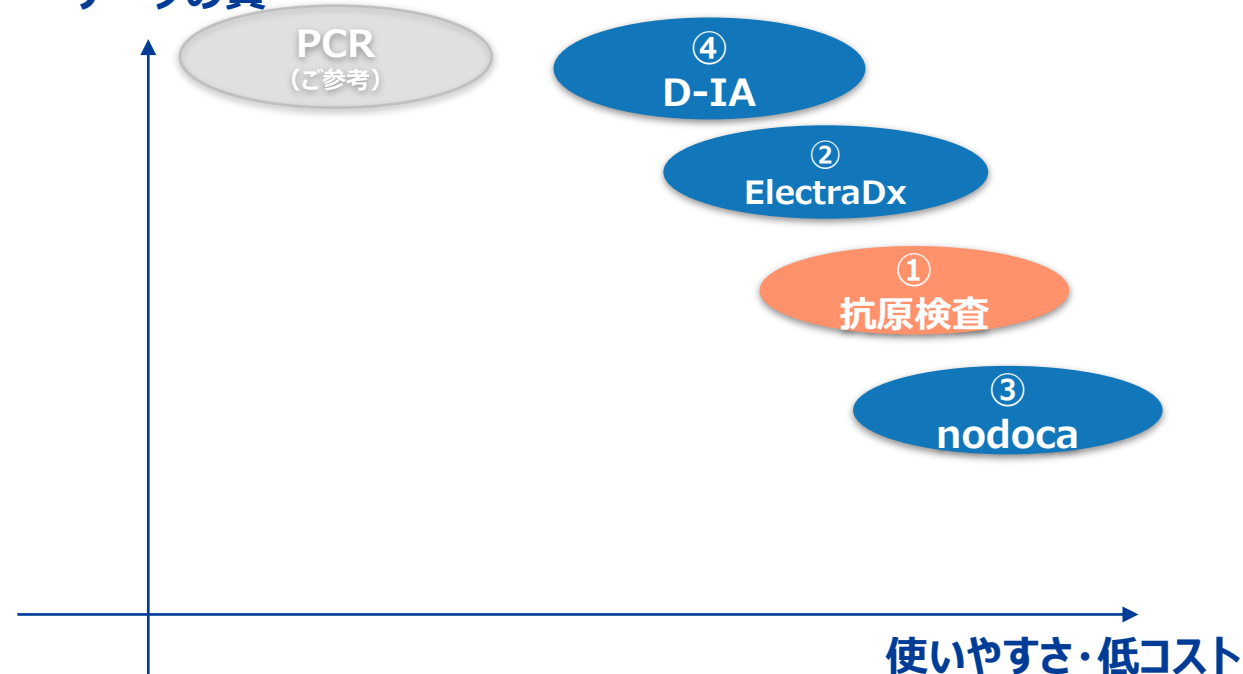
- ① 簡易、迅速な**抗原検査**を引き続きPOCT戦略の主軸とする。
コンボⅡを始めとする製品ラインナップ強化によりシェアを高める
- ② **ElectraDx**の感染症核酸パネルを導入。
検査精度向上と同時多項目検査により、見逃しや再検査を減らす
- ③ **nodoca（咽頭画像AI）**により、低侵襲の感染症検査を導入する
- ④ **D-IA**により、検体中のバイオマーカーの高精度定量検査を実現。
外注検査によらずにその場でできる診断フローの確立を目指す。
認知症や糖尿病をターゲットとして開発を進める他、結核のモニタリング検査で活用する

1) TAT : Turn Around Time. 検査受付から報告までの所要時間

タウンズPOCTの技術関連イメージ

4種類のPOCTを活用し、医療現場の課題を解決する

検査精度・
データの質



- タウンズ検査センターに最先端の検査機器を導入し、マルチオミクス¹⁾の受託検査サービスを提供
- 大学病院や健診事業者、自治体などと連携し、医療データバンクの構築・運用を支援する

受託検査進出の背景

- ・ 次世代シーケンサー（NGS）の普及やAIの進展により、Craifの「miSignal」など、次世代型の受託検査プロダクトが登場
- ・ 次世代型の受託検査プロダクトはto C向けが中心で、医療機関への普及が進んでいないケースが多い
- ・ 新たな検査技術の開発に向け、利活用可能な医療データ収集がカギ

タウンズの受託検査戦略

- ① 受託検査サービス提供
- ・ マルチオミクス¹⁾の検査体制
 - ・ 医療機関向け販促
 - ・ 薬事申請



- ② 医療データバンク
- ・ 検査データの蓄積
 - ・ 大学病院他と連携して医療データバンク構築を支援

- ③ 新たな検査技術の開発
- ・ 医療データバンクを活用
 - ・ 自社営業力を生かしてマーケ

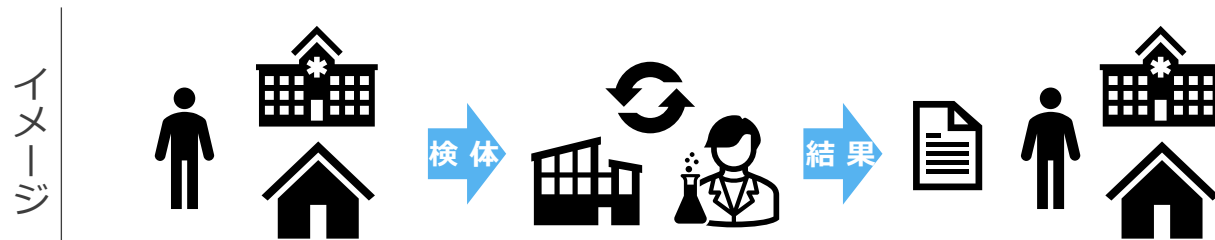
1) マルチオミクス：生体内の遺伝子、RNA、たんぱく質、エピゲノムなどのデータを網羅的に解析する手法
 2) 受託検査プロダクトの詳細はP.41（Appendix）にてご説明
 3) NGS：Next Generation Sequencing。大量のDNA/RNA配列を同時並行で解析する技術
 4) FCM：フローサイトメトリー。細胞を流路に流し、細胞表面・内部の特徴を測定する技術
 5) ICI：免疫チェックポイント阻害剤。免疫のブレーキを解除し、がん細胞への免疫反応を高める薬剤

受託検査とは

検体の採取
血液/尿/だ液など

先端機器による解析
網羅的/統合的な解析

解析結果の確認
詳細な検査結果報告



主体

- ・ 個人
・ 医療機関
- ・ 検査センター
- ・ 個人
・ 医療機関

受託検査プロダクト例²⁾

名称	対象疾患	特徴
miSignal（Craif）	がん（リスク評価）	NGS ³⁾ （尿検体）による高精度がんスクリーニング
Th7R	がん（治療方針策定）	FCM ⁴⁾ （全血検体）によるICI ⁵⁾ の効果予測

- Craifが開発中の「膵がんSaMD」の国内独占販売権を取得。クリニックなどでの膵がん早期検査の普及を目指す
- SaMD事業を担う「機器ソリューション戦略本部」を立ち上げ、POCTとSaMDの融合を推進する

SaMD進出の背景

- ・ 疾患の早期発見、診断支援、医療現場の業務効率化を目的に、医療AI/SaMDの活用が急速に広がっている
- ・ 多くの革新的なSaMDが開発されているが、医療機関が安心して導入するには、実績・品質保証・運用支援が不可欠
- ・ タウンズのPOCT事業で培った医療機関接点と信頼性により、SaMDの実証と普及をリードする

タウンズのSaMD戦略

① 医療機関へのSaMD展開

- ・ タウンズの営業力により、膵がんSaMDや冠動脈CT SaMDを販促
- ・ 主力SaMDの運用実績を積み上げ、他のSaMDの普及に繋げる



② POCT×SaMD

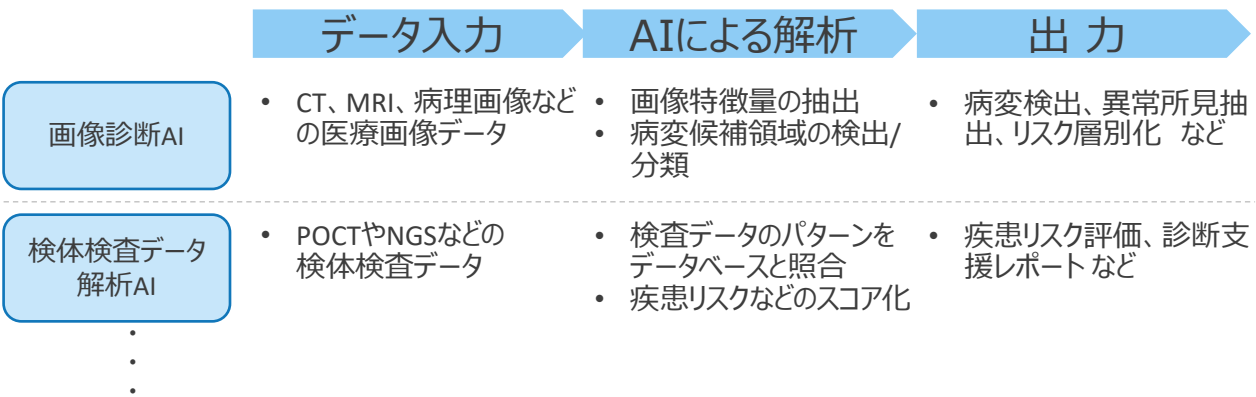
- ・ D-IAなどのPOCTとSaMDを組み合わせた最適な診断フローを構築（組み合わせでの薬事申請など）

③ イメージング・コアラボ事業

- ・ SaMDの知見と医療画像データセットを活用し、製薬企業向けの医療画像解析受託サービスを展開

SaMDとは何か

医療データをAIなどで解析し、医療判断を支援する医療機器としてのソフトウェア



SaMDプロダクト例¹⁾

名 称	対象疾患	特 徴
膵がんSaMD (Craif)	膵がん (スクリーニング)	尿検体による、ステージ1を含む膵がんの早期発見
冠動脈CT SaMD	心疾患 (治療方針策定)	低侵襲の冠動脈CTにより「形態×プラーク×血行動態」を統合評価。侵襲性の高い心臓カテーテルの検査段階での使用を減らす

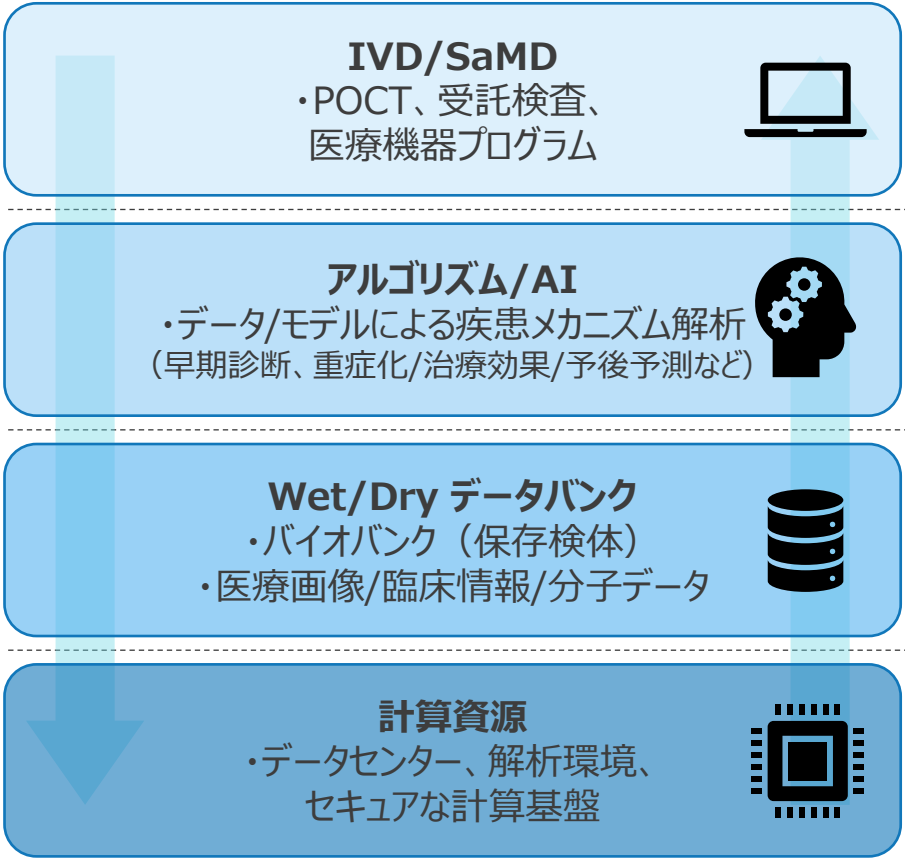
1) SaMDプロダクトの詳細は P.41 (Appendix) にてご説明

- 計算資源、データバンク、アルゴリズム/AIまで一気通貫の体制を構築し、次世代のIVD/SaMD開発に活用
- アカデミア、スタートアップ、製薬企業、自治体を巻き込んだエコシステムを構築し、継続的に新技術を産み出す基盤とする

データ・AI基盤の階層

↑
プロダクト

↓
インフラ/
基盤



活用目的

施策・パートナー



- ・ 新規マーカーをIVDとして実装
- ・ 新規SaMD開発
- ・ IVD×SaMDによる診断
- ・ ワークフローの最適化

- ・ バイオバンク研究から得られる新規
- ・ マーカーを活用した次世代IVD開発
- ・ **クレアボ¹⁾** のSaMDノウハウの活用



- ・ 疾患メカニズムの解析
- ・ 新規マーカー探索/評価
- ・ SaMDへの応用

- ・ **EMCH²⁾** や**カリスト³⁾** との提携による疾患解析とアルゴリズム/AI開発



- ・ 自社R&D活用
- ・ スタートアップへのデータ提供
- ・ 保存検体やデータの外販支援
- ・ イメージング・コアラボ事業

- ・ バイオバンク構築 (**大学病院、自治体、EMCH**他と提携) 支援
- ・ 医療画像、EHRなどRWD収集 **カリスト**との提携によるデータセット整備



- ・ 自社R&D活用
- ・ スタートアップへの計算資源提供
- ・ オフテイク契約による収益化

- ・ データセンター事業者との提携による、効率的かつ安全な計算資源の確保

1) クレアボ：クレアボ・テクノロジーズ株式会社
 2) EMCH：EMC Healthcare株式会社
 3) カリスト：カリスト株式会社

疾患別戦略

目標

主要な呼吸器感染症POCTにおいて、
国内市場シェア40%以上を獲得

31/6期 目標売上（国内）：202億円
SOM（国内）：227億円

現状の課題

医療現場の課題

1. 抗原検査の精度不足により、陽性患者を見落としたり、再検査となるケースがある
2. 感染症の流行期において医療従事者の業務負担が増える
3. スワブによる検体採取の侵襲性が患者負担になる

タウンズの課題

1. コンボⅡの導入遅れによるシェア拡大の遅れ
2. 価格競争への対応
3. ネクスト・パンデミックに向けた、簡易かつ高精度なPOCTの必要性

事業方針

施策

- **コンボⅡ**や**Strep A/アデノ コンボ**のローンチによるシェア拡大
- 原価削減による価格競争力向上
- 抗原検査の改良による競争力向上
- ElectraDx核酸パネルの導入
- nodoca（低侵襲の咽頭画像AI検査）の導入
- 営業体制の強化（P26参照）

展望

- **27/6期1Q(目標)：コンボⅡ ローンチ**
- 27/6期：nodoca取り扱い開始
- **29/6期：Strep A/アデノ コンボ ローンチ**
- 30/6期：ElectraDx核酸パネル ローンチ
- 各抗原検査の改良版ローンチ

目標

D-IA結核POCTでWHO事前認証を取得し、グローバル展開を目指す

31/6期 目標売上（海外含む）：16億円
SOM（海外含む）：93億円

現状の課題

医療現場の課題

1. 結核は世界で年間10百万人以上が感染。多剤耐性結核菌のまん延も大きな課題
2. 短期レジメン（投薬期間を短縮する治療法）の普及には短時間で治療効果や結核菌の耐性獲得を評価する検査が必要だが、現状はTATが1-6週間の培養検査によるモニタリングに依存
3. 結核の確定診断で普及が進む核酸検査は、モニタリング検査には適していない（検体中の死菌を結核陽性と判定するリスクがある など）

タウンスの課題

1. キャピリアTB-Neo（培養陽性検体に対する確定診断）は、核酸検査へのリプレースが進みつつある

事業方針

施策

- 短時間（1.5時間以内）で、培養検査に近い高感度で生菌由来抗原を検出する**D-IA結核POCT**を導入。培養検査に代わる新たなモニタリング検査フローを確立
- スクリーニング、確定診断、モニタリングまで一気通貫でカバー
- ローンチ後速やかにD-IA結核POCTのグローバル展開を進めるため、**WHO事前認証取得**を目指す

展望

- **31/6期：**
- **D-IA結核POCTローンチ**
- **WHO事前認証取得**

目標

心不全パンデミック時代に向け、POCTとSaMDにより低侵襲かつ効率的な心疾患のリスク層別化フローを確立する

31/6期 目標売上（国内）：19億円
SOM（国内）：35億円

現状の課題

医療現場の課題

1. 高齢化により心疾患の患者数が増加し、循環器診療リソースのひっ迫が懸念される（心不全パンデミック）
2. 心臓カテテル検査がリスク層別化の主流だが、侵襲性の高さ、手間・時間がかかることが課題
3. 冠動脈 CT 画像解析のワークフローは施設ごとに運用が分かれやすく、診断までのリードタイム短縮や、一貫したデータ運用体制の構築が課題

事業方針

施策

- **冠動脈CT SaMD** により、各医療機関のポリシーに応じた柔軟なデータ運用（院内サーバー等）に対応しつつ、低侵襲かつ迅速にリスク層別化と治療方針策定を支援
- 共通プラットフォーム上で利用可能な心血管 CT SaMD を順次拡充し、冠動脈を中心とした心血管領域全体の診断ワークフローの高度化を目指す
- ElectraDx（NT-proBNP/トロポニン）により、胸痛患者の初期リスク評価を迅速化

展望

- **27/6期：**
-冠動脈CT SaMDローンチ
-リファレンスサイト立ち上げ
- 28/6期：ElectraDx NT-proBNPローンチ
- 29/6期：ElectraDx トロポニンローンチ
- 心血管CT SaMDを順次ローンチ

目標

- ・**肺がんの早期診断フローを確立**
- ・**がん領域におけるリスク評価からモニタリングまでをカバーするプロダクト提供**

▶ 31/6期 目標売上(国内) : 86億円
SOM (国内) : 210億円

現状の課題

医療現場の課題

1. 糖尿病患者など肺がんのハイリスク群が増加しているが、肺がんの早期発見の決め手がない
2. 免疫チェックポイント阻害剤(ICI)の奏功率は10-30%程度とされており、奏功する患者の見極めが課題
3. ICIの術前検査は、患者への侵襲性が極めて高い細胞診による
4. 放射線画像の高精細化・枚数増加により、読影医の負担が高まっている

事業方針

施策

- ・ **Craifが開発中の肺がんSaMDを国内独占販売。**糖尿病患者など肺がんハイリスク群を主なターゲットとし、**大手医薬品卸と連携してクリニックなどの医療機関**へ展開
- ・ **Th7R** (ICIの奏効率を評価する術前検査。低侵襲の全血検体を採用) をローンチ。大手検査センターと連携する
- ・ 肺がんSaMD、乳がんSaMD (画像診断支援AI) をローンチ。読影精度向上と診断効率化に寄与する
- ・ miSignalの医療機関向け取り扱いを開始

展望

- ・ 27年6月期 : -miSignal取り扱い開始
-肺がんSaMDローンチ
- ・ **28年6月期 : -肺がんSaMD取り扱い開始**
-Th7R (LDT) ローンチ
-乳がんSaMDローンチ
- ・ 31年6月期 : **Th7RのIVD化** (肺がん用)

目標

**D-IA認知症POCTと認知機能AIを連携させ、
認知症/MCI患者のスクリーニングとトリアージ
を支援**

31/6期 目標売上（国内）：10億円
SOM（国内）：126億円

現状の課題

医療現場の課題

1. レカネマブなどの疾患修飾薬（DMT）により、認知症/軽度認知障害（MCI）の早期診断、早期介入の重要性が高まっている
2. 認知症/MCI患者は年々増加（国内推計1000万人超）しているのに対し、認知症専門医は2000名程度。クリニックでの患者の適切なスクリーニングとトリアージが重要
3. 既存の認知症血液マーカー（アミロイドβ他）検査は、専門医での利用を想定した高度な受託検査が中心であり、クリニックでの活用は進んでいない

事業方針

施策

- **D-IA認知症POCT**により、認知症の血液マーカーをクリニックで簡易に測定できるようにする
- **Splinkの認知機能AI**（CQ Test）とD-IAを連携させ、認知症/MCIのスクリーニングをクリニックで実施
- CQ TestとD-IAで、クリニックでの認知症/MCI患者のトリアージ（専門医への紹介or自施設での治療継続）を支援

展望

- **30年6月期：D-IA認知症POCTローンチ**
- D-IA認知症POCTと認知機能AIとの組み合わせによる最適な認知症診断フロー確立。メモリークリニックを初期ターゲットとする

目標

D-IA糖尿病POCTと行動変容アプリを連携させ、糖尿病患者の行動変容を支援する

31/6期 目標売上（国内）：2億円
SOM（海外含む）：430億円

現状の課題

医療現場の課題

1. 成人の糖尿病患者と予備群は世界で約12億人¹⁾と推計され、増加傾向にある
2. 血糖管理には血糖測定が有用だが、既存の測定方法には以下の課題があると認識
 - HbA1cは、2～3か月に1度の通院検査のみ。変化速度も遅く、平均血糖の変動を日常生活の中でレスポンス良く示すには不向き
 - SMBGやCGMなどの自己血糖測定は概ねインスリン依存型の患者に保険が限定されており、多数を占めるインスリン非依存型の患者は自己血糖測定をしていない
 - 血液検査の侵襲性も課題

事業方針

施策

- **Provigateとの提携**により、だ液中のグリコアルブミン（GA：過去1週間程度の平均血糖を反映）を指標とする低コスト・低侵襲の**D-IA糖尿病POCT**を開発する
- 週1回のGA測定結果（≡過去1週間の平均血糖値）をユーザーアプリに表示。遠隔サポートサービスとも連携させ、血糖改善・維持のための継続的な行動変容を支援する
- GA測定データを利用者・支援者・医療者が共有しやすい形で可視化する

展望

- **31年6月期：D-IA糖尿病POCTローンチ**

疾患別の主な開発パイプライン

疾患	プロダクト	製品概要	ローンチ/取り扱い開始時期				
			27/6期	28/6期	29/6期	30/6期	31/6期
呼吸器感染症	nodoca (アイリス)	咽頭画像AIによる呼吸器感染症検査	○				
	コンボⅡ	新型コロナ・インフルエンザ同時検査	○				
	Strep A/アデノ コンボ	溶連菌・アデノウイルス同時検査			○		
	ElectraDx 核酸パネル	呼吸器感染症高精度パネル検査				○	
結核	D-IA 結核POCT	結核スクリーニング・確定診断/モニタリング検査					○
心疾患	ElectraDx NT-proBNP	心疾患マーカー検査		○			
	ElectraDx トロポニン	心疾患マーカー検査				○	
	冠動脈CT SaMD	画像AIによる心疾患の治療方針策定支援	○				
がん	Th7R/LDT	がん治療 (ICI) 効果予測検査		○			
	Th7R/IVD	がん治療 (ICI) 効果予測検査					○
	miSignal (Craif)	尿によるがんリスク評価検査	○				
	膵がんSaMD (Craif開発中)	尿による膵がんのスクリーニング検査		○			
	肺がんSaMD	画像AIによる肺がんの確定診断支援	○				
	乳がんSaMD	画像AIによる乳がんの確定診断支援		○			
認知症	D-IA 認知症POCT	認知症血液マーカー検査				○	
糖尿病	D-IA 糖尿病POCT	糖尿病だ液マーカー検査					○

A large, light blue circle with a radial gradient, transitioning from a lighter blue at the top to a darker blue at the bottom. It is centered on the slide.

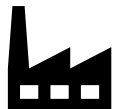
ビジョン実現の ための主要施策

目標

- ① 31/6期の生産数量:26/6期対比で40%¹⁾ 以上増加
- ② 31/6期の生産部門の一人当たり生産性²⁾ : 26/ 6 期対比で50%以上増加
- ③ 品質管理体制の強化 (製品回収に繋がりにかねない品質問題の発生を未然に防ぐ)

1. 生産キャパシティ活用

- 生産拠点の運用方針
 - 富士山三島工場(新設) : 抗原検査の量産に特化
 - 神島工場 : D-IA生産ラインの立上げ、生産受託など
- 生産リードタイムの短縮
 - 在庫水準を抑えつつ、感染症の流行変動に柔軟に対応



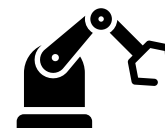
2. 生産性向上

- 製造ラインの効率化/自動化による生産性の継続的改善
- 外注工程内製化によるコスト削減
- AI活用による生産計画の最適化、間接業務の効率化



3. 品質管理体制の強化

- インライン検査の拡充
- 検査自動化による検査工数の削減
- 検査データのリアルタイム管理
- AI活用による不良予兆検知と品質リスクの早期フィードバック



1) 31/6期生産数量÷26/6期生産数量
2) 生産数量÷生産本部人員数

目標

- ① 31/6期の呼吸器感染症POCTの国内シェア：40%以上獲得
- ② 31/6期の新規領域における国内売上高：130億円以上達成

1.呼吸器感染症POCTのシェア拡大

社内施策

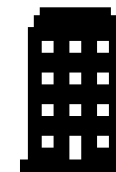
- DMR増員：34名→50名以上へ
- 組織再編・人員再配置：間接業務の効率化と組織再編を進め、営業体制を効率化

対外施策

- 医薬品卸戦略：戦略的な在庫配分による効率的製品供給と医薬品卸内でのプレゼンス強化
- 提携戦略：塩野義やロシュによるタウンズ製品拡販

2. 新規領域における売上確保

- タウンズDMRによる、SaMD(クレアボ/Craif) のクリニック向けプロモーション
- がん/認知症/糖尿病に特化した疾患専任チーム立ち上げ
- SaMD普及に向けた大手医薬品卸との提携
- Th7R普及に向けた大手検査センターとの提携



目 標

- ① 31/6期の海外売上高：25億円以上達成
- ② D-IA結核POCTのWHO事前認証取得を含む、D-IAのグローバル展開に向けた体制構築

製 品

市 場

		既 存	新 規
市 場	既 存	市場浸透 アジア市場を中心に抗原検査の売上拡大 ➢ ICリーダー導入による公立病院での採用率アップ ➢ Cov-2キットなど製品ラインナップ拡充	新製品投入 D-IAとSaMDによる新たな結核対策 ➢ D-IA結核POCTのWHO事前認証取得を目指したUNとの連携強化 ➢ 結核画像診断SaMDのアジア、アフリカ展開
	新 規	市場開拓 中南米／アフリカ市場の開拓 ➢ 新規代理店の開拓 ➢ 現地製造業者向けの中間体供給（抗原検査キット、リパーゼ試薬など）	新規領域 D-IA×慢性疾患のグローバル展開 ➢ D-IA認知症POCT、D-IA糖尿病POCTの海外向け薬事申請準備 ➢ 北米市場への進出準備

AIX（AIトランスフォーメーション）戦略

- AI活用による生産性向上により、新規事業や高付加価値業務へ人的リソースを再配分
- AI活用の意義・目的の明確化、KPIの設計、評価制度の構築を行う

Step 1

業務の性質上、AI活用により即時に効率化が見込める業務からAIXを実施

研究開発

- ・論文／特許／競合情報収集
- ・過去資料・試験データの検索



提携／投資

- ・提携候補リスト化
- ・シナジー仮説の整理



経営管理

- ・市場調査/競合分析
- ・事業計画ドラフト作成



Step 2

AIの業務への組み込み難易度は高いが効率化ROIが高い領域を集中対応

生産／SCM・工場

- ・生産計画案の作成
- ・欠品／過剰在庫リスク検知



営業／学術／CS

- ・訪問前ブリーフ作成
- ・面談サマリー作成



薬事／品質保証／安全管理

- ・過去資料検索
- ・類似逸脱／苦情検索

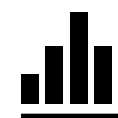


Step 3

AI導入の前提となる大量の業務・データ整理が必須な領域のAIX

SaMD/医療データ

- ・検体／検査／画像データ整理
- ・疾患別データセット構築



臨床検体・受託検査

- ・利用可能検体の検索
- ・検査結果の異常値フラグ



実現のために必要な要素

活用環境の整備

- ・AIを使えるツール、データ、ルールを整備



人材育成

- ・各部門でAIを使いこなせる人材を育てる



現場への確実な実装

- ・企画のみではなく、実業務に組み込む



セキュリティ／個人情報管理

- ・機密情報、個人情報、医療データを守るセキュアなAI利用環境を整備



- AIXで創出する人的リソースを①新規事業へ再配置することで、人員増を管理しつつ新規事業への進出を進める
- ②個人への投資と③組織の活性化を進め、成長を支える基盤を強化する

(前頁) AIXによる業務効率化/人的リソース創出

定型・間接業務を効率化し、重点領域へ振り向けるリソースを創出

- 情報収集・資料作成・定型業務の効率化
- 会議・調整・情報共有などの工数削減
- 業務プロセス・ナレッジの標準化

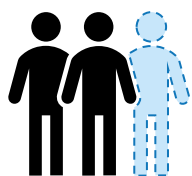


人的リソースの有効活用

① 新規事業への人材再配置

新規事業・高付加価値業務への人材再配置

- 人材を新規事業へ再配置

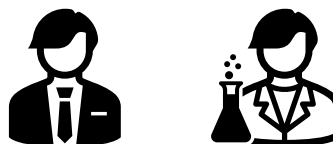


高付加価値
業務へ集中

② 個人への投資

AI活用推進やリスキリングを含む 個人への投資

- 全社的なAI活用スキル底上げ
- 新規事業へ向けたリスキリング



③ 組織の活性化

マネジメント改革による組織の 活性化

- 新規事業に適した育成・評価
- 対話重視のマネジメント
- 多様な働き方の導入

- スタートアップの先進性・成長力を取り込むために、タウンズがスタートアップ及び大手事業者と戦略的に提携
- タウンズが両者のハブとして先進技術の事業化にコミットし、実装と医療機関への普及を加速する

スタートアップ のお困りごと

信用・導入実績が不足

“医療機関やパートナーに
採用判断してもらいにくい”

営業体制が構築途上

“医療機関への販路構築や導入
支援の仕組みが構築途上”

医療業界への知見不足

“業界特有の薬事・臨床現場・
商流への理解に課題”



スタートアップ
CEO



TAUNS

投資実績

- 直近3年間で11社に投資した強固な社内投資チーム
- 代表野中は50社以上のスタートアップ投資経験を有し、投資判断で強いリーダーシップを発揮

豊富な業界知見・顧客基盤

- 30年以上のIVD事業経験
- 数万軒の医療機関への納入実績

多様な人材・連携先

- 各分野の専門人材
- KOLとの良好な関係性

大手事業者 のお困りごと

新技術の目利きに課題感

“有望技術を早期に見極めにくく、
投資機会を逃している感がある”

投資・提携経験の不足

“多くの投資・連携案件を試しながら学ぶことが難しい”

意思決定のスピードに課題

“構造上、意思決定・協業
推進に時間を要しやすい”



医薬品卸
検査センター
製薬企業

- 富士山三島工場稼働で生産キャパシティを確保済み。今後は生産性向上やD-IAの量産ライン立ち上げを進める
- 戦略投資として、新規領域への進出などに必要な出資や、AIXによる全社的な生産性改善を進める

イメージ	主な投資内容	投資額	得られる効果
	● 生産設備更新投資 ● 生産性向上投資 ● D-IAの量産体制の整備	29億円	● 安定供給と1人当たり生産性向上 ● D-IAの供給
	● 研究開発体制の強化 ● D-IAの量産開発投資 ● 検査センターへの先進的な検査機器導入	5億円	● 抗原検査の競争力強化 ● D-IAの実装 ● マルチオミクス受託検査サービスの展開
戦略投資		7億円	● 人員増を適切に管理しつつ、新規領域やグローバル展開を加速 ● データ・AIを活用した次世代IVD/SaMDの開発
		最大60億円	● 新規領域での成長 ● グローバル展開の強化

サステナビリティに対する取り組み

サステナビリティ推進体制の強化

サステナビリティ推進委員会の設置

- 部門横断的にマテリアリティを共有・改善できる体制の構築

マテリアリティの再定義と拡張

- 「医療の個別化・予測医療の推進」をマテリアリティに組み込む
- 研究基盤の高度化と、持続的なデータ利活用体制の整備
- 医療技術や製品を継続的に進化させるエコシステムの推進

戦略・戦術の策定と実行

マテリアリティと整合したKGI/KPI設計

- 各業務領域におけるマテリアリティとKPIを整合させ、部門評価に反映するなどトラッキングの体制を整備

持続的・安定的な供給責任

- 新工場による、より効率的な供給体制とBCP対応

人財開発・研修プログラムの拡充

- 変化する事業環境の中で着実に戦略を実行するべく、「単一領域に特化した人財」から、「複数領域に対応できるT字型人財」への成長を支援

ステークホルダーからのフィードバックを通じたサステナビリティの高度化

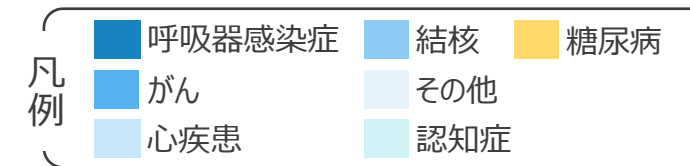
- 共同研究先である医療関連企業や学術機関、資本提携先
- 機関・個人投資家

- お客様、サプライヤー各社
- 社外役員
- 専門的な知見を有する社外エキスパート

計数計画

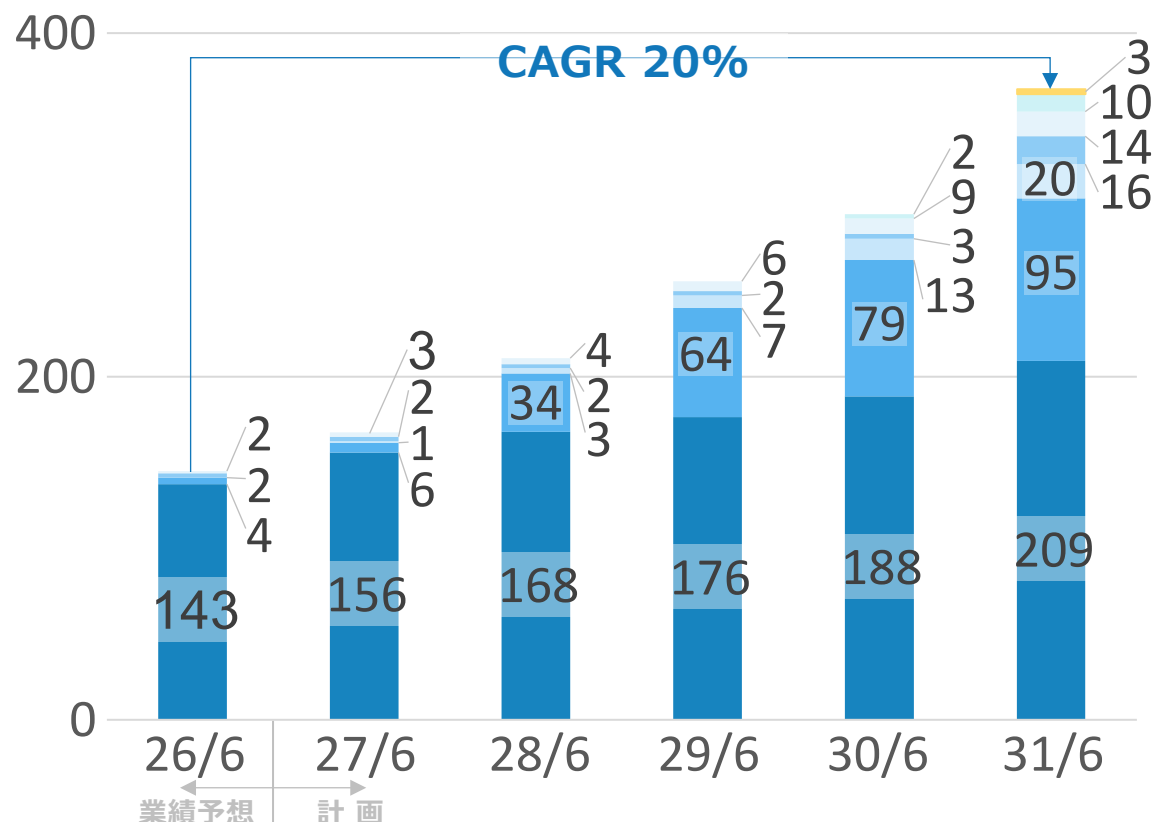
疾患別売上計画

- コンボⅡローンチを含む製品ラインナップ強化と販売体制強化により、呼吸器感染症領域においてシェア拡大による着実な成長を図る
- がんや心疾患などの慢性疾患向け製品を新たな収益の柱とする



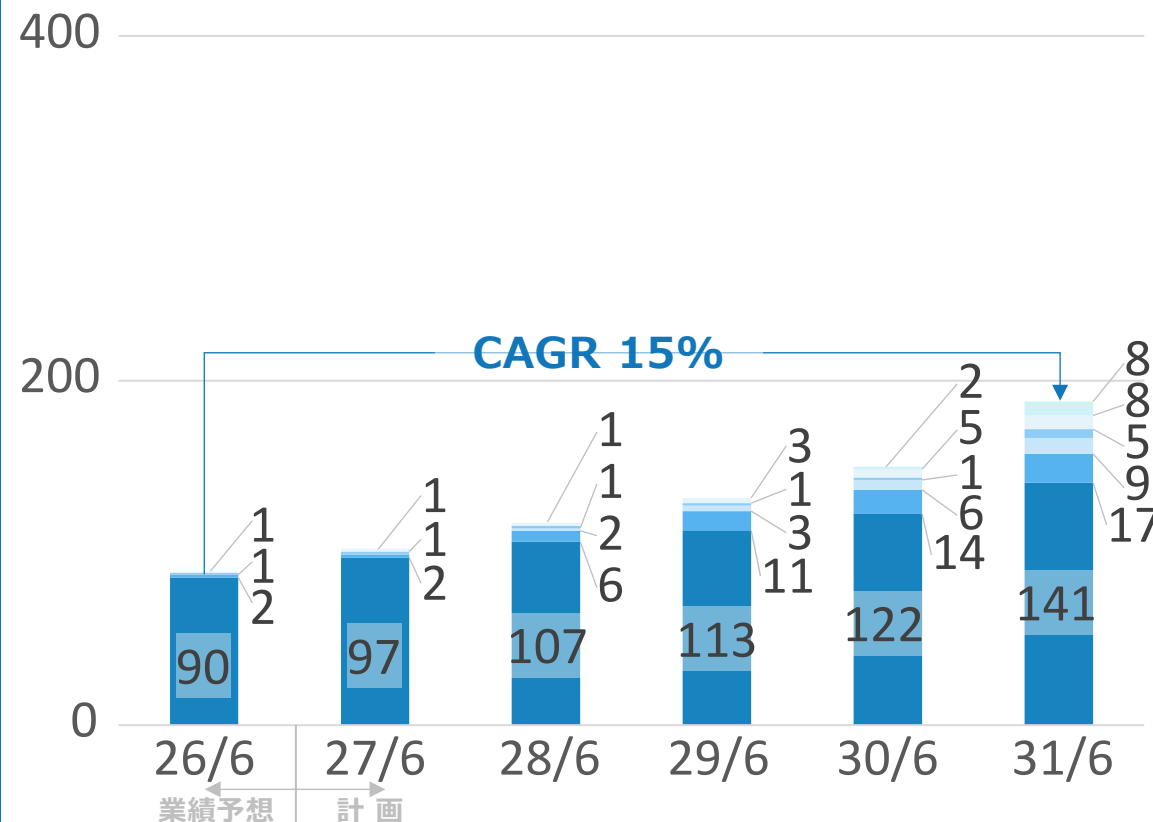
売上

(単位：億円)



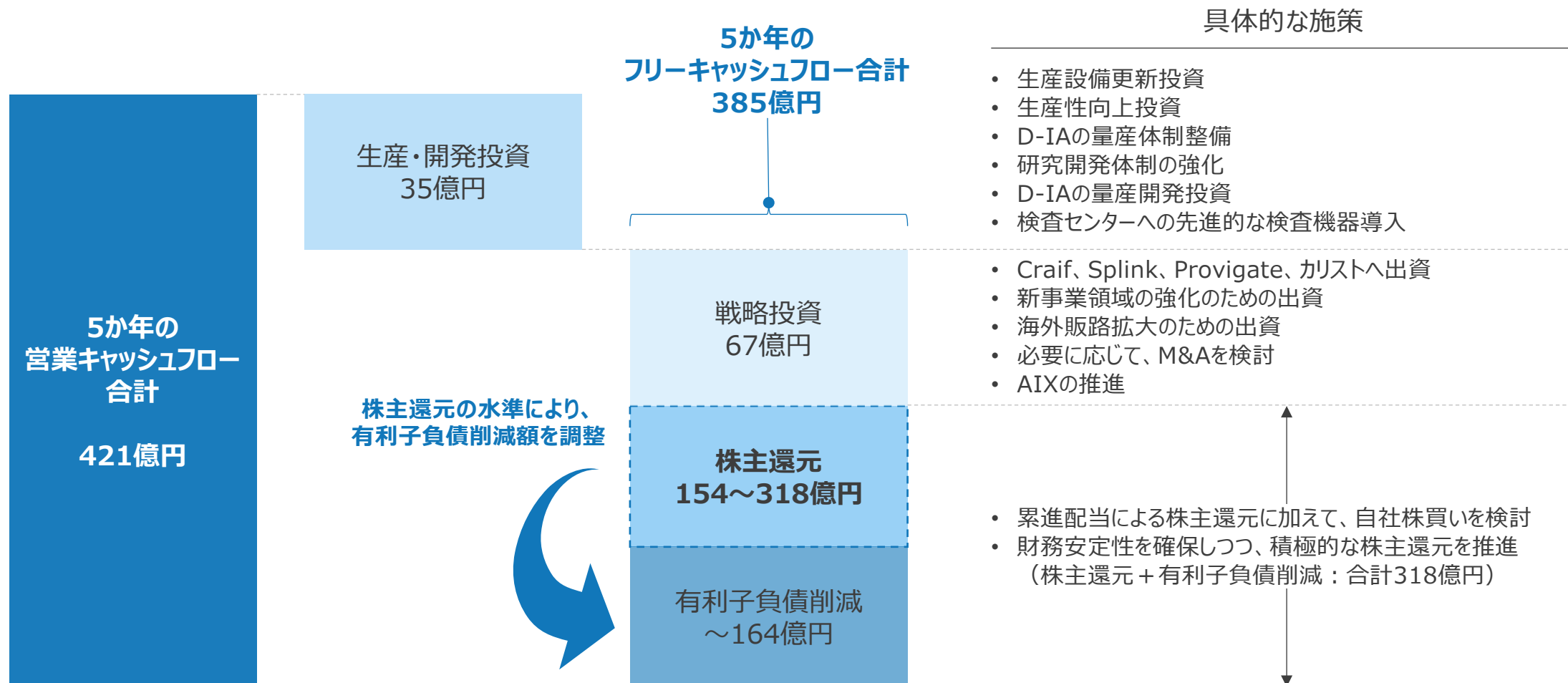
売上総利益

(単位：億円)



キャッシュアロケーション

- 本中計期間（5か年）で創出するFCF(計385億円目標)を、戦略投資、株主還元、有利子負債削減に配分
- 財務安定性を確保しつつ、積極的な株主還元(累進配当と自社株買い)を推進する方針



- 27年6月期から31年6月期までの本中計期間において、1株当たり29円を起点とした累進配当を行う
- 事業環境と株式市場の動向を勘案して、必要に応じて自社株買いを検討する

累進配当について

- 前中計において、26年6月期から30年6月期まで、1株当たり28円を起点とした累進配当を導入
- 今後の中長期的な成長を鑑み、27年6月期から31年6月期までの累進配当の起点を、1株当たり29円へ変更する
- 本配当政策においても、今後の戦略実行に必要な投資余力を確保可能（P35参照）

決算期	中間配当 (円)	期末配当 (円)	年間配当 (円)	備考
24/6期	6.00	21.75	27.75	東証スタンダード市場への上場を記念して、1株当たり11円10銭の特別配当を実施
25/6期	6.00	22.00	28.00	当社設立10期目を迎えるため、期末に1株10円00銭の周年記念特別配当を実施
26/6期（予）	14.00	14.00	28.00	1株当たり28円00銭を起点とした累進配当を導入
27/6期以降	-	-	29.00以上	27/6期から31/6期までの累進配当の起点を、1株当たり29円00銭に引き上げ

Appendix

Appendix : 検査技術別売上計画

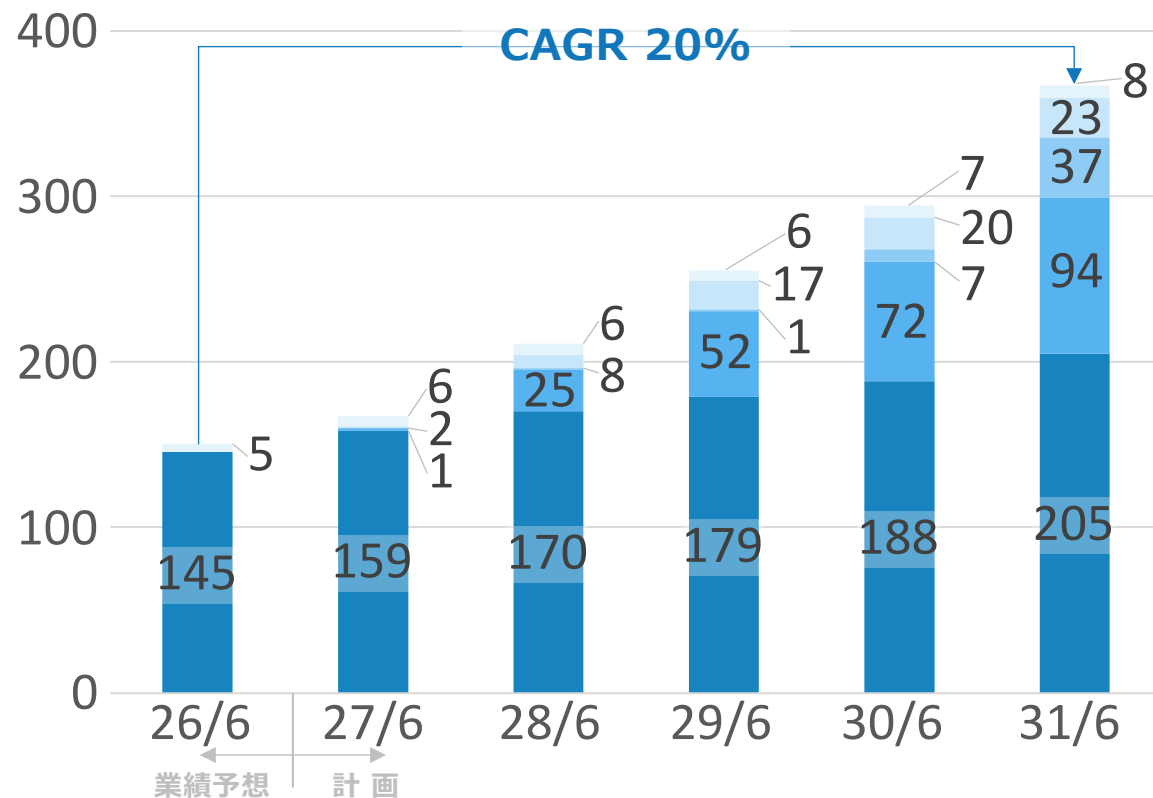
- 抗原検査の製品ラインナップを強化し、シェア拡大による着実な成長を目指す
- 新規POCT¹⁾、SaMD、受託検査を新たな収益の柱とする

凡例

■ 抗原検査	■ 受託検査	■ その他
■ SaMD	■ 新規POCT	

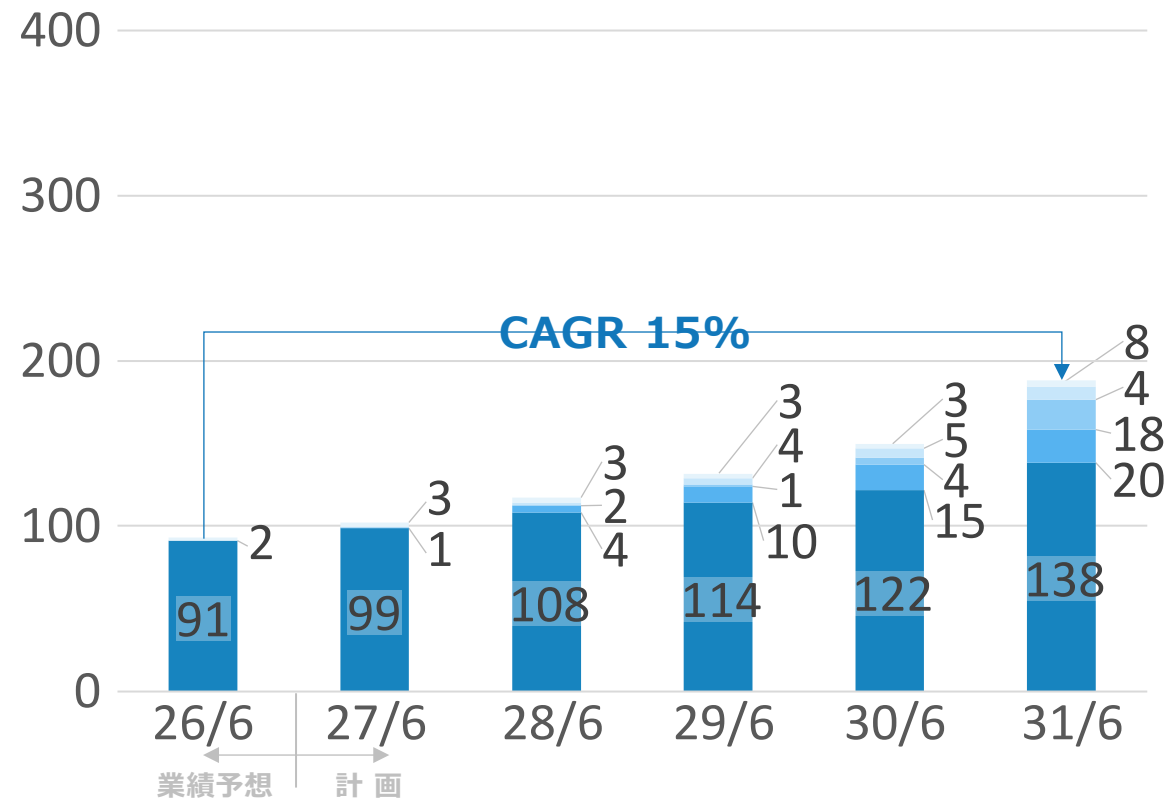
売上

(単位：億円)



売上総利益

(単位：億円)



1) 新規POCT : D-IA、ElectraDx、nodoca

Appendix : プライム市場の上場基準とタウンズの現状



		プライム市場の上場基準 ¹⁾	タウンズの現状	基準充足状況
流動性	株主数	800人以上	39,059人 2026年6月末	充足
	流通株式数	20,000単位以上	約360,013単位 2026年6月末	充足
	流通株式時価総額	100億円以上	約169億円 2026年6月30日終値	充足
	売買代金	平均売買代金0.2億円以上	約1.5億円 2026年5月平均	充足
	流通株式比率	35%以上	約33.7% 2026年6月末	未充足
ガバナンス	収益基盤	2年間の利益総額25億円以上 (単体 経常利益)	経常利益合計 約134億円 2025年6月期 + 2026年6月期見込み	充足
経営成績 財政状態	財政状況	純資産50億円以上	163億円 2026年3月末	充足

1) 株式会社日本取引所グループ : プライム上場基準

Appendix : 主要製品一覧 (1 / 2)



検査技術	製品名	対象疾患	検査目的	製品の概要	提携先	ローンチ予定時期
抗原検査	コンボⅡ	インフルエンザ/新型コロナ	スクリーニング	既存のコンボキットの改良版		27/6期 1Q目標
	イムノエースFlu	インフルエンザ	スクリーニング	インフルエンザを簡易・迅速に検査するキット		済
	イムノエースSARS-CoV-2 Ⅲ	新型コロナ	スクリーニング	新型コロナを簡易・迅速に検査するキット		済
	イムノエースAdeno	アデノウイルス	スクリーニング	アデノウイルスを簡易・迅速に検査するキット		済
	イムノエースStrep A Ⅱ	溶連菌	スクリーニング	溶連菌を簡易・迅速に検査するキット		済
	Strep A/アデノ コンボ	溶連菌/アデノウイルス	スクリーニング	臨床症状の近いアデノウイルスと溶連菌を同時に検査するキット		29/6期
	RSV/アデノ コンボ	RSウイルス/アデノウイルス	スクリーニング	RSウイルスとアデノウイルスを同時に検査するキット		30/6期
	RSV/hMPV コンボ	RSウイルス/ヒトメタニューモウイルス	スクリーニング	RSウイルスとヒトメタニューモウイルスを同時に検査するキット		30/6期
D-IA	結核POCT	結核	スクリーニング、確定診断、モニタリング	培養検査に近い高精度で、結核菌群の生菌由来のタンパク質を1.5時間以内に検出。結核のスクリーニング、確定診断、モニタリングまで一気通貫でカバーする検査		31/6期
	認知症POCT	認知症	スクリーニング、治療方針策定	血液中の認知症マーカーを高精度で測定。認知症/MCI患者のスクリーニングや、専門医への紹介要否の判断を支援する	Splink	30/6期
	糖尿病POCT	糖尿病	モニタリング	だ液中のGA濃度を週次測定。糖尿病患者及び糖尿病予備群の行動変容支援の指標として活用する	Provigate	31/6期
ElectraDx	核酸パネル	呼吸器感染症	確定診断	複数の呼吸器感染症を同時に検査する高精度核酸POCT	ElectraDx	30/6期
nodoca	Flu	インフルエンザ	スクリーニング	低侵襲の咽頭画像をAIで解析し、インフルエンザを検査	アイリス	済

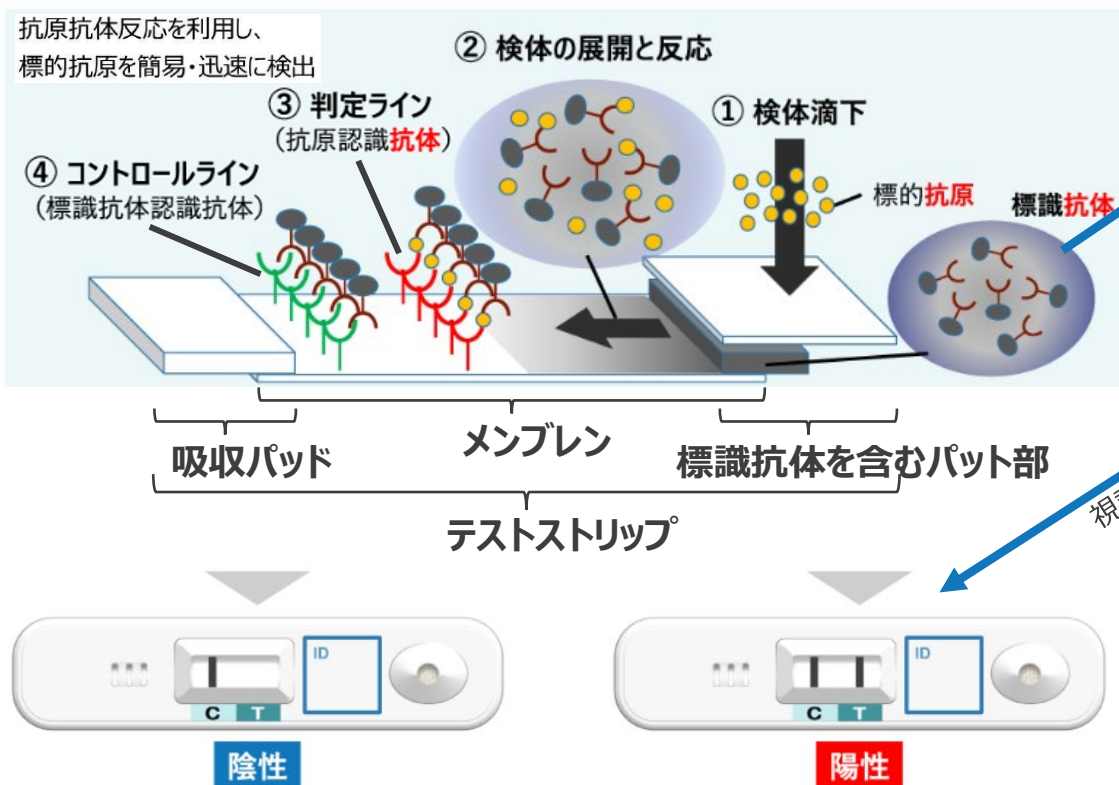
Appendix : 主要製品一覧 (2 / 2)

検査技術	製品名	対象疾患	検査目的	製品の概要	提携先	ローンチ予定時期
受託検査 /NGS	miSignal	がん	リスク評価	Craifが提供している、尿中のmiRNAをNGS（次世代シーケンサー）で解析し、10種のがんのリスク評価を行う検査	Craif	済
受託検査 /FCM	Th7R	肺がん	治療方針策定	全血検体で、FCM(フローサイトメトリー)により患者の免疫状態を解析。免疫チェックポイント阻害剤の治療効果を事前に予測する検査		28/6期
SaMD/ NGS	膵がん SaMD	膵がん	スクリーニング	Craifが開発中の、尿中のmiRNAをNGSで解析し、膵がんのスクリーニングをするSaMD	Craif	28/6期
SaMD/画像	冠動脈CT SaMD	心疾患	治療方針策定	従来は侵襲性の高い心臓カテーテルで行っていた心疾患患者の血流量推定を、低侵襲の冠動脈CT画像のAI解析で行うSaMD	クレアボ	27/6期
	血管CT SaMD	心疾患	確定診断	頭頸部から大動脈、下肢に至るまで、CT画像から血管形状を短時間で解析・可視化するSaMD AIを活用することで、汎用の画像解析ソフトより短時間かつ高精度な解析を実現し、解析担当者の負担を軽減するとともに、患者への診断結果報告までの時間を短縮する	クレアボ	27/6期
	乳がん SaMD	乳がん	確定診断	乳房X線（マンモグラフィ）画像を解析し、乳がんが疑われる腫瘤影や石灰化を検出するSaMD 熟練医でも読影が難しい高濃度乳房（デンスマンモ）の白濁した陰影からも、病変を高精度に検出できる点が特長。これにより、見落としリスクの低減と、乳がんの早期発見に寄与する	クレアボ	28/6期
	肺がん SaMD	肺がん	確定診断	胸部CT画像から、肺がんが疑われる結節影を自動検出するSaMD 疑わしい部位を迅速かつ適切に抽出することで、CT検査件数が年々増加する中で読影効率を大きく向上。医療現場の作業効率改善に加え、見落とし防止にも貢献する	クレアボ	27/6期

Appendix : 抗原検査キットの原理とタウンズの技術の強み

- 数多くの自社抗体の開発実績（特許化含む）や、独自技術である白金－金コロイドなど高い技術力を有する
- 技術力を活かし、特異性と感度を両立した高品質な製品を開発。さらには複数感染症間の幅広い検体共用の実現など、医療従事者と患者の双方にとって価値の高い製品を供給している

抗原検査キットの原理



タウンズのコア技術と製品の付加価値

タウンズのコア技術

白金－金コロイド技術

を独自に開発、黒色の標識物で視認性の高いブラックラインを実現

長年にわたるノウハウ蓄積により非特異反応を抑えつつ感度を向上させる技術を獲得

高い抗体開発技術

や豊富な実績とノウハウを保有

高性能な抗体の作出が、キットの感度や特異性の向上に大きく貢献する

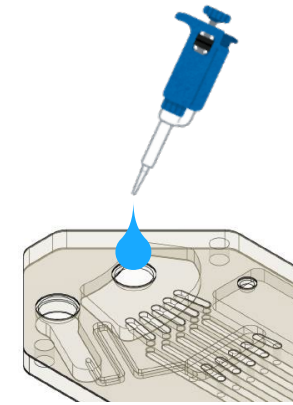
特異性 × **感度** を両立

Appendix : デジタルイムノアッセイ (Digital ImmunoAssay : D-IA)

- タウンズの次世代POCT技術。高精度かつ迅速にバイオマーカーの定量検出が可能
- マイクロ流路を採用し、微小容積下で抗原抗体反応を実施することで反応効率を大幅に向上。測定チップにかかる遠心力を利用し、迅速性と高精度を両立
- 金コロイド由来の散乱光を検出することで、1粒子単位のデジタル検出による超高感度・定量判定を実現
- 最大20項目までのマルチプレックス検査に対応



D-IA 専用測定装置



マルチプレックス検査
対応測定チップ



- 独自の電気化学式テストストリップと接続型小型装置により、検査室レベルの測定をPOCT・在宅領域に展開する技術
- ストリップ内にマイクロ流路、温度制御、測定制御を統合し、タンパク質・核酸などの反応を電気化学信号として検出
- 呼吸器感染症、性感染症、心不全などの慢性疾患、糖尿病、炎症マーカーなどの迅速検査に展開可能

使いやすさ

Easy to use

Simple, convenient, rapid test results (<10 minutes)

幅広い診断メニュー

Broad Test Menu

Diverse platform offers various community and home tests for key health needs.

データのクラウド連携

Connected

Integrated healthcare data enhances medical decision-making.



検査室レベルの精度

Lab-Quality Performance

Next-Gen electrochemical tech ensures precise lab performance

低価格

Ultra Low Cost

Affordable: <\$100 device, ultra low-cost strips.

高機能ストリップ

Intelligent Strip

Intelligent test strip with on-strip electronic assay controls.

Appendix : nodoca (アイリス)

- 専用カメラ（内視鏡用テレスコープ：nodoca（ノドカ））により咽頭画像を取得し、問診・体温等の診療情報と共にAIが解析することで、インフルエンザなどの診断補助を行うプログラム医療機器
- 低侵襲検査であり患者負担が少なく、検査に要する時間も数秒から数十秒と短い
- 教師データの拡充により、一度の画像撮影で多くの疾患に関する判定結果を同時に表示できる可能性を有する技術



ノドから、病気を見つけ出す。

nodoca

販売名：nodoca（ノドカ）
一般的名称：内視鏡用テレスコープ
承認番号：30400BZX00101000
製造販売業者：アイリス株式会社
nodoca、nodoca クラウド、クリアシースは、
アイリス株式会社の登録商標です。



point1 発熱・症状が出始めて
すぐに検査可能※

point2 痛みの少ない、
患者さんにやさしい検査

point3 判定開始から
数秒～十数秒で判定

※ 治験では統計的に有意な差は認められなかったが、発症早期（12時間以内）において、nodocaは既存の検査法よりも精度（感度）が高い傾向が見られた。

Aillis社HPから引用（<https://nodoca.aillis.jp/#>）

Appendix : SaMDとは

- SaMD (Software as a Medical Device) は「医療機器としてのソフトウェア」。日本では「プログラム医療機器」として薬機法上の枠組みで取り扱われる
- 医療機関の業務効率化や医師の診断支援、治療方針策定、患者管理などに資するソフトウェアであり、臨床的意義が高い製品は保険収載の対象となる

類 型	概 要	主な入力データ	主な出力	製品事例
① 画像診断支援AI	医用画像をAI解析し、読影・診断・治療方針決定を支援	CT、MRI、X線、内視鏡、病理画像など	病変検出、異常所見抽出、重症度評価、リスク層別化	クリアボ取扱製品群 (心疾患SaMDなど)
② アプリ／DTx	スマホなどを用いて、認知機能評価、行動変容、症状管理、治療継続を支援	患者入力、PHR、生活習慣、認知機能データなど	認知機能評価、行動変容支援、症状モニタリング、疾患管理	認知機能AI (CQ Testなど)
③ 解析アルゴリズム	POCT・受託検査などの検査データを解析し、診断補助・患者層別化を支援	POCT、NGS、miRNA、免疫プロファイルなど	疾患リスク、診断補助レポート、治療反応性予測	膀胱がんSaMD

Appendix : 心疾患SaMD製品群 (クリアボ)



海外企業S社が開発する心疾患SaMD製品群を、日本国内で展開予定 出所：クリアボ・テクノロジーズ株式会社 Webサイト

胸痛患者の
リスク層別化

低リスク患者の早期除外

狭窄・プラーク評価

読影・診断ワークフロー改善

血行動態評価

侵襲的検査の抑制

治療方針決定支援

医療費適正化・患者負担軽減

- AI画像解析技術を用いた海外企業S社の心疾患SaMD製品群を、クリアボを通じて日本国内で展開。クリアボは当該製品群の国内独占販売代理店権を有する
- 一連のソフトウェアを共通ユーザーインターフェース上で利用可能。冠動脈CT画像から「形態・狭窄」「プラーク性状」「血行動態」を統合的に評価し、医師の治療方針決定を支援する
- 今後は頭頸部、大動脈、下肢等の周辺血管領域にも対象を拡大。本中計期間において計7製品の上市を目指し、学会・KOLとの連携を通じてエビデンス構築と保険収載を推進する

Appendix : TAM/SAM/SOMの考え方

イメージ

例：呼吸器感染症抗原検査

例：認知症POCT

国内の年間累計発熱患者数

国内の高齢者数

TAM•

理論上対象となる
総市場規模

SAM•

自社が提供可能な
範囲の市場規模

SOM•

自社が現実的に
獲得可能な市場規模

IQVIA 等の市場データに基づく国内の
呼吸器感染症検査の推定実施件数

TAM×認知機能検査受診率
×認知症血液マーカー受診率

SAM×目標シェア

SAM×目標シェア

Appendix : 用語説明（1 / 5）

カテゴリ	用語	説明
疾患	Adeno	アデノウイルス。咽頭炎・結膜炎・胃腸炎などを引き起こすウイルス
	CoV-2	新型コロナウイルス。呼吸器感染症の原因ウイルスの一つ
	Flu	インフルエンザウイルス。呼吸器感染症の原因ウイルスの一つ
	hMPV	ヒトメタニューモウイルス。小児や高齢者で多く見られる呼吸器感染症の原因ウイルス
	RSV	RSウイルス。呼吸器感染症の原因ウイルスの一つで、乳幼児や高齢者で重症化することがある
	Strep A	A群β溶血性連鎖球菌。咽頭炎などを引き起こす細菌
	TB	結核菌群。肺結核症を引き起こす細菌
	心不全	心臓のポンプ機能が低下し、全身に十分な血液を送り出せない状態
	虚血性心疾患	冠動脈の狭窄・閉塞により心筋への血流が不足する心疾患群
	糖尿病	血糖値が慢性的に高くなる疾患
	膵がん	膵臓に発生するがん
	肺がん	肺に発生するがん
	乳がん	乳房に発生するがん
製品	CoV-2/Fluコンボ	新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスを同時に検出する抗原検査キット
	StrepA/アデノコンボ	A群β溶血性連鎖球菌とアデノウイルスを同時に検出する抗原検査キット
	RSV/アデノコンボ	RSウイルスとアデノウイルスを同時に検出する抗原検査キット
	RSV/hMPVコンボ	RSウイルスとヒトメタニューモウイルスを同時に検出する抗原検査キット

Appendix : 用語説明 (2 / 5)

カテゴリ	用語	説明
製 品	miSignal	尿中のmiRNAなどをAIで解析し、10種のがんのリスク評価をするサービス。Craifの製品
	膵がんSaMD	尿中のmiRNAなどをAIで解析し、膵がんの早期発見を支援する医療機器プログラム。Craifの開発中製品
	冠動脈CT SaMD	冠動脈CT画像をAIで解析し、狭窄や血行動態の評価を支援する医療機器プログラム
	心血管CT SaMD	頭頸部、大動脈、下肢等の血管CT画像を解析し、血管形状等の評価を支援する医療機器プログラム
	乳がん SaMD	乳房X線画像を解析し、乳がんの疑いがある腫瘤影や石灰化の検出を支援する医療機器プログラム
	肺がん SaMD	胸部CT画像を解析し、肺がんの疑いがある結節影の検出を支援する医療機器プログラム
検査用語	nodoca	専用カメラで撮影した咽頭画像と問診情報などをAIが解析して判定する呼吸器感染症検査。アイリスの技術
	ElectraDx	核酸検査と抗原・バイオマーカー検査を実施するPOCT技術。呼吸器感染症、心疾患などを対象
	D-IA	デジタルイムノアッセイ。高精度に抗原・バイオマーカーなどを定量検出するタウンズの次世代POCT技術
	FCM	フローサイトメトリー法。血液中の細胞などを流路に流し、細胞表面や内部の特徴を測定する技術
	抗原検査	イムノクロマト法により、迅速な抗原検出を行う技術
	SaMD	Software as a Medical Device。医療データをAIなどで解析し、医療判断を支援するソフトウェア
	受託検査	医療機関等から委託を受け、検査センターで検体検査などを実施するサービス
	CGM	Continuous Glucose Monitoring。センサーにより血糖変動を継続的に測定する機器
	SMBG	Self-Monitoring of Blood Glucose。患者が指先などから採血し、血糖自己測定器で血糖値を測定する方法
	IVD	In Vitro Diagnostics。体外診断用医薬品。人体から採取した検体を用いて疾病・感染症の有無などを検査する製品
	NGS	Next Generation Sequencing。検体に含まれるDNA/RNA配列を高速に解析する技術
	PCR	DNAまたはRNAの特定配列を増幅し、検出対象の有無を判定する検査
	POCT	Point of Care Testing。医療現場や患者の近くで実施し、迅速に結果を得る検査
	核酸検査	DNAまたはRNAを検出する検査。PCRやNGSなどが含まれる
	マルチプレックス検査	1回の検査で複数の病原体や遺伝子などを同時に検出する検査。パネル検査
	LDT	Laboratory Developed Test。検査センターなどが独自に開発・実施する検査
	アミロイドPET	脳内のアミロイドβ蓄積を画像で評価する検査
	画像AI	医療画像をAIで解析し、病変検出や診断支援を行う技術

Appendix : 用語説明 (3 / 5)

カテゴリ	用語	説明
医療用語	スクリーニング	疾患の疑いがある人を対象とする初期的な検査
	バイオバンク	血液などの検体と、それに紐づく各種医療データを保管し、研究開発に活用する仕組み
	低侵襲	痛みや身体的負担をできるだけ少なくする検査・治療のこと
	miRNA	マイクロRNA。遺伝子発現を制御するなどの機能を持った短いRNA
	TAT	Turn Around Time。検査受付から結果報告までの所要時間
	ICI	免疫チェックポイント阻害薬。免疫のブレーキを解除し、がん細胞への免疫反応を高める薬剤。オプジーボなど
	DMT	疾患修飾薬(Disease Modifying Therapy)。疾患の進行メカニズムに働きかける治療法。レカネマブなど
	アミロイドβ	アルツハイマー病に関連するタンパク質
	ハイリスク群	特定疾患を発症する可能性が相対的に高い患者群
	リスク層別化	患者をリスクの高低に応じて分類し、検査・治療方針を決める考え方。
	レカネマブ	アミロイドβを標的とするアルツハイマー病の疾患修飾薬
	スワブ	鼻腔や咽頭などから検体を採取するための綿棒状の器具
	認知症マーカー	アルツハイマー型認知症などに関連するアミロイドβやリン酸化タウなどのバイオマーカー
	コンパニオン診断薬	特定の医薬品を安全かつ有効に使用するために、投与対象患者の選択等に必須となる検査
	Th7R	免疫チェックポイント阻害薬の治療効果予測に関連するバイオマーカー検査。侵襲性の低い全血検体を採用

Appendix : 用語説明（4 / 5）

カテゴリ	用語	説明
医療用語	保険収載	医療技術や医療機器などが公的医療保険の対象として認められること
	HbA1c	ヘモグロビンA1c。糖化されたヘモグロビンであり、過去1～2か月程度の平均的な血糖状態を反映する指標
	グリコアルブミン	GA。糖化された血清アルブミン。直近1週間前後の平均的な血糖状態を反映する指標
	BNP	心不全の診断・除外などに用いられるバイオマーカー
	NT-proBNP	心不全の重症度やリスク評価に用いられるバイオマーカー
	トロポニン	心筋障害・心筋梗塞の評価に用いられる心筋由来タンパク質マーカー
	冠動脈CT	冠動脈の狭窄やプラークなどを評価するCT画像検査
	プラーク	血管内に蓄積する脂質などの病変。心血管疾患のリスク評価で用いられる
	狭窄	血管や管腔が狭くなること。冠動脈疾患の評価で重要
	血行動態	血液の流れや圧力などの状態
データ・AI	EHR	Electronic Health Record。医療機関が患者の診療情報を電子的に記録・共有する仕組み
	PHR	Personal Health Record。個人が自らの健康・医療データを管理・活用する仕組み
	RWD	Real World Data。日常診療、レセプト、レジストリ、ウェアラブル等から得られる実臨床データ
	Wetデータ	血液、尿、だ液、体組織などの実試料に由来する医療データ
	Dryデータ	医療画像、EHR、PHR、RWDなど、デジタル情報として扱う医療データ
	計算資源	AI解析やゲノム解析などに必要なサーバー、GPU、クラウド、解析環境
	アルゴリズム	データを解析し、分類・予測・診断支援などを行う計算手順・モデル
	イメージング・コアラボ	治験・臨床研究などで医療画像データを集約し、標準化・解析する業務
	AIX	AI Transformation。AI活用を前提に業務・組織・人材を変革すること

Appendix : 用語説明 (5 / 5)

カテゴリ	用語	説明
事業	R&D	Research & Development. 研究開発活動
	TAM	Total Addressable Market. 理論上自社の対象となる総市場規模
	SAM	Serviceable Available Market. 自社が提供可能な範囲の市場規模
	SOM	Serviceable Obtainable Market. 自社が現実的に獲得可能な市場規模
	KOL	Key Opinion Leader. 影響力のある専門医・研究者など
	WHO PQ	WHO Prequalification. WHOによる事前認証制度。IVDなどの品質・安全性・性能を評価し、国際調達で参照される
	オフテイク契約	将来の生産物・サービスを一定条件で引き取る契約
	コ・プロモーション	複数企業が共同で製品の販売促進活動を行うこと
	コ・マーケティング	複数企業が同一製品の販売を共同で行うこと
	DMR	Diagnostic Medical Representative. 診断薬・検査関連製品を医療機関などへ情報提供する営業担当者
企業名	EMCH	EMC Healthcare株式会社。 https://www.emcjpn.com/
	Craif	Craif株式会社。 https://craif.com/
	クレアボ	クレアボ・テクノロジーズ株式会社。 https://www.clairvotech.com/
	Splink	株式会社Splink。 https://www.splinkns.com/
	Provigate	株式会社Provigate。 https://provigate.com/
	カリスト	カリスト株式会社。 https://callisto-ai.com/
	アイリス	アイリス株式会社。 https://aillis.jp/
	ElectraDx	ElectraDX, Inc.。 https://electradx.com/
	塩野義	塩野義製薬株式会社。 https://www.shionogi.com/jp/ja/company/outline.html
	ロシュ	ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社。 https://www.roche-diagnostics.jp/